

## 経歴表明

ラーズ ウッガーホイは、デンマークのオールボー大学社会学及びソーシャルワーク学科においてソーシャルワークの専任教授です。

ソーシャルワーカーとしての教育を受けており、13年間に渡って現場実践に従事していました。1995年に、デンマークでソーシャルワーカーとして初めて博士の学位を取得しました。研究の面で、サービス利用者の経験と参画、また実践研究における研究・実践・利用



者の連携に焦点を置いています。両領域について、国内でも国際的にも多くの専門書と論文を発表してきました。9年間に渡ってデンマークのソーシャルワーク修士課程の長を務めてきました。学生がイギリス、ポルトガル、フランス、ポーランド、デンマークにおいて教育を受けるエラスムス・ムンドゥス修士課程である「ソーシャルワーク上級発展修士」のデンマークのコーディネーターで、コーディネート委員会の委員です。ラーズ ウッガーホイは、オールボー大学における50人のソーシャルワーク研究者グループでは3人の研究リーダーの1人であり、本研究グループ内の「実践研究とサービス利用者の視点」に関する研究ネットワークのコーディネーターです。「ソーシャルワークにおける知の生産」に関する北欧諸国研究ネットワークと、北欧・バルト諸国ソーシャルワーク博士ネットワークのコーディネーターで、国際的な博士セミナー、講座、ネットワークを企画しています。

## *IASSW* のビジョン

私のビジョンは、研究、特にソーシャルワークにおける協働的な研究アプローチの自然で必然的な場として *IASSW* の役割を強調することです。ソーシャルワークの資格を付与するためには、ソーシャルワーク教育の各レベルと研究が密接に連携しなければなりません。この連携を通じて、教員はより簡単に研究成果と批判的な研究議論をカリキュラムに取り入れることができ、また協働はソーシャルワークにおけるより共通した知の生産につながります。

研究の歴史からみて若い学問である故に、ソーシャルワークはドグマに妨げられず、様々な種類の研究をより自由に試すことができます。エビデンス型実践が優先事項になっている時代において、ソーシャルワークはオールターナティブな方法による自己洞察を必要としています。新しい真実としてではなく、エビデンスに基づいたアプローチを補足するという意味です。ソーシャルワーカーが日常的な実践において直面する問題により直接的につながる研究アプローチが必要で、研究を実践における学習のプロセスの一部としなければなりません。

実践研究をより発展させるために、*IASSW* の優先課題においてより強く位置づける必要があります。実践研究は教育・研究・実践・サービス利用者の連携を含み、しがってソーシャルワーク教育課程、戦略、実践などにおけるサービス利用者の参加を促します。研究の展開においてソーシャルワークに関する様々な意見を取り入れること、またソーシャルワーカーと

サービス利用者の立場を消費者から協働相手に変えることが不可欠です。実践・サービス利用者・教育・研究の間に連携と関係を構築し、立場を変え、新しい研究の伝統を形成することが用意ではなく、IASSWのような「母体組織」が強調・支援しなければなりません。

IASSW 内部において、研究に基づく知の生産に対するより顕著な姿勢と明確な戦略は、ソーシャルワーク課程及び研究にもより強いメッセージを与えることになります。IASSW はソーシャルワーク教育者の活躍と交流の場である以上、協働型研究アプローチへの明確な関心を発信し、それを通して知の生産に対する新しいアプローチを開発するように教育者に働きかける必要があります。したがって、これらの協働型でより共同的な研究アプローチと、ソーシャルワークの資格付与においてより多くのサービス利用者を基盤とする戦略の発展を強調し、支援することが IASSW に対する私のビジョンです。そして、より強く断言します：

IASSW はこれらの動向とアプローチを支援し、その方針をより明確化する責任をもっています。